

## 会 議 要 旨

会議の名称	令和5年度第1回川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会
会議日時	令和5年11月17日(金) 午前10時00分 開会 ・ 午前11時50分 閉会
開催場所	川越市役所東庁舎2階 教育委員会室
議長(会長)氏名	会 長 福川 裕一
出席者(委員)氏名	委 員 溝尾 良隆、佐藤 由美子、森内 優子、 長島 貴子、隈倉 雄二郎、山川 直美、 原 知之、竹澤 穰治 9人
欠席者(委員)氏名	委 員 田口 陽子、中山 昌克、石村 晃龍 3人
傍聴者	なし
事務局職員 職 氏名	都市景観課 課 長 粕谷 勝 主 幹 中村 直樹 主 任 武居 直希 主事補 溝口 結大 主事補 西井戸 優子
会議次第	1 開会 2 新任委員紹介 3 議題 4 報告事項 (1)令和4年度伝建地区保存整備事務について (2)令和4年度国庫補助事業について (3)令和5年度国庫補助事業について (4)川越市蔵造り資料館耐震化事業について 5 その他 6 閉会

## 議 事 の 経 過

## 1. 開会

## 2. 新任委員紹介

## 3. 議題

なし

## 4. 報告事項

## (1)令和4年度伝建地区保存整備事務について

事務局から、令和4年度の伝建地区保存整備事務について説明。

## 【委員からの主な意見、質問及び事務局からの回答】

なし

## (2)令和4年度国庫補助事業について

事務局から、修理事業4件、新築事業1件について報告。

## 【委員からの主な意見、質問及び事務局からの回答】

・ 築後130年近くの建物が多くなり、損傷が激しい歴史的な建造物が増えている。定期的な点検ができるようなシステムを作る必要があると思うが市はどのような考えか。

➡回答：点検についてはその重要性を認識しているが、具体的な対応はできていない状況である。民間事業者と連携して定期的な点検を行い、修理が必要な場合においては小規模修理を実施してもらうなどの仕組みについて模索していく。

・ 伝統的建造物の修理の場合、80%の補助率とのことだが、自己資金が用意できない所有者には行政側も関与できないということか。

➡回答：現在のところ、更なる支援策ができるかについては難しい課題であると考えている。

## (3)令和5年度国庫補助事業について

事務局から、修理事業4件について報告。

## 【委員からの主な意見、質問及び事務局からの回答】

・ これまでの修理の場合、新築のように修理を行うことが通常であったが、今回は所有者の希望により、現状の古びた状態に修復するために古色塗りを施すとのことだが、このような手法について市の方で何か方針はあるか。

➡回答：今回の修理については現状になじむような色にする現状維持という考え方、また、町並みとの調和や歴史的風致の維持という観点と照らし合わせ、許可をした。

## (4)川越市蔵造り資料館耐震化事業について

博物館長から、川越市蔵造り資料館耐震化事業の事業内容について説明。

## 【委員からの主な意見、質問及び事務局からの回答】

・ 建物や町並みに興味がない観光客による食べ歩きやゴミのポイ捨てが問題とな

っている。そのような人たちに歴史的な建物を守らなければという意識を持ってもらう仕組みが必要だと考える。建物等に興味がない人は、修理状況の映像などをリアルタイムで情報発信をしたとしても見るとは思えないため、現場に興味を持たせる仕組みがあることが必要だと考える。

▶回答：検討させていただく。

## 5. その他

- ・事務局から、旧川越織物市場の入居者募集について説明。(令和5年12月12日(火)まで)
- ・平成13年にマンションを建てる計画が挙げた時にこの建物が残されたのは、地元の方々の努力があったためであり、その努力が20年ほど経ってようやく実ったと思う。このことを知ってもらうための機会があるといいと思う。

### 【委員からの主な意見】

- ・災害が発生した場合、漆喰等の痛みが多数発生すると思う。現状でも職人が足りておらず、対応ができないことから、放置されることになるため、短期間に多数の職人を全国から集めるためのネットワークづくりを進めてもらう必要があると考える。
- ・例えば、金沢の職人大学校を参考に、北関東の歴史的な都市と共同で職人育成に取り組めるとよいのではないか。
- ・人件費や原材料が上がっているため、歴史的な建造物を修繕するには今まで以上の費用がかかる。歴史的な建造物は現代の住宅以上に、少しの修理でも費用がかかるため、所有者だけでは到底維持していけないだろうと思う。この問題に対し、町ぐるみで考えていかなければならないと感じる。
- ・車で川越に観光に来る人も多いことから、駐車場の収益を建造物の修理に回すといったことができないか検討すべきだと思う。
- ・伝建地区住民のことを総合的に担当する課が市役所にないため、少子高齢化に伴う山車の曳き手不足や一番街通りにおけるチェーン店の増加に伴う税収の不足、自治会の会議場所の不足といった地元の様々な問題の相談ができる課を設けてもらいたい。
- ・お祭りの際に若い人が潤沢にいるところから少ないところへ山車の曳き手を提供できるような仕組みづくりが今後の課題だと思う。
- ・このような伝建地区に関する様々な話題について話し合う場がもっと必要だと思う。

## 6. 閉会